

かすがい



市議会
だより

令和4年 第1回臨時会(1月14日)

第2回定例会(2月17日~3月15日)

第 118号
2022年(令和4年)5月

もくじ

議案の概要	2
代表質問	4
一般質問	8



「アゲハ蝶の乱舞」

岩船神社近くの川沿いにある花畑で、百日草に数頭のアゲハ蝶が、花の蜜を吸っている1頭のメスをめぐり、オスたちが舞っている所です。

撮影者:熊澤 晴夫 撮影場所:廻間町

一般質問

今回の定例会では、15人の議員が市の考え方や方針など、市政全般にわたり、28項目の一般質問を行いました。

市政全般にわたる問題について質問します

一般質問は、市当局に対し施策・事業などの現状や将来計画の考え方など、市民に密着した問題をたずため行うものです。

各議員の質問と当局の答弁を、要旨で掲載しています。

(一般質問については、質問者から提出された原稿で掲載しています。)



海風くん

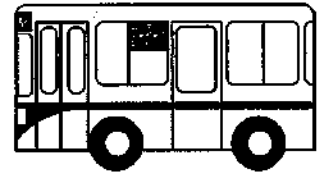
1 北部オンデマンドバスについて

質問者 市民クラブ まえだ 学

担当 都市政策課

【質問】本市では、北部オンデマンドバスが導入され6ヶ月が経過しました。地域の方々に好評を得ている北部オンデマンドバスの現状の延べ乗客数、1日平均の乗客数、経費と旧北部線の乗客数、現在のシティバスの路線の経費、沿線住民よりどのような声が届いているか問う。また今後の乗降ポイントの新設と運行車両を増やす考えがあるか問う。

【答弁】半年間の総乗客数は3,604名、一日平均は約30名、経費は一日約6万7千円です。旧北部線の同区間の一日平均は約31名、経費は旧北部線とほぼ同距離の新南部線が一日約7万8千円です。住民から「バス停が近くなった」「乗降ポイントを追加して欲しい」「電話で予約が取りにくい」との声がありますが、少ない相乗り利用を増やすことで、現車両により利便性を損なわない程度に、利用者増の検討を進めます。



2 今後の町内会・自治会等のあり方について

質問者 無会派 はせ かずや

担当 市民活動推進課

【質問】共助の要である組織の持続可能な運営のために、財政面の課題として町内会助成金の見直しや防犯灯電気料全額補助、業務的な課題として提出書類の簡素化や計画的なICT化推進への移行等が議論・要望されてきた。これらの負担軽減策は、役員の高齢化・後継者不足・加入率低下・地域による格差は正のためにも急務な課題と考えるが、市の取組みとを考えを問う。

【答弁】町内会の負担軽減については、手引書やQ&A集といった冊子による情報提供のほか、広報春日井を月1回の発行としたことも、負担軽減につながっているものと考えています。また、4年度は、町内会役員経験者などで構成する検討会議を設置し、各種補助制度や加入促進策、負担軽減につながる支援策について検討するとともに、負担軽減につながる手法を学ぶICT活用講座を実施します。



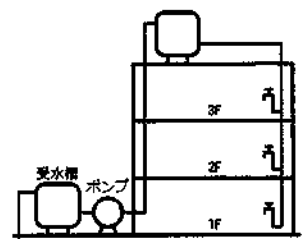
3 避難所・受水槽の災害用給水栓設置について

質問者 自由クラブ 奥村 昇次

担当 上下水道経営課

【質問】大震災時に必要となる飲料水を賄う為、避難所の小学校で更新する受水槽は災害用給水栓付に標準化すること、現行受水槽に災害用給水栓を追加することを検討して欲しい。停電時ポンプ停止で受水槽から給水できない場合、災害用給水栓で受水槽の水を活用できれば、500mlのペットボトル2万本分が給水できます。

【答弁】小学校の現行受水槽については、災害時に応急給水を行う上で有効な手段となることから、老朽度や耐震性を踏まえ、災害用給水栓が取り付けられるように、市内37校の内、20校で改修を終え、災害用給水栓の使用が可能となっています。改修を終えていない小学校については、小学校のリニューアル工事や受水槽の更新に合わせ、順次、災害用給水栓を設置していきます。



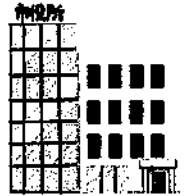
8 市民に伝わる文書作成について

質問者 市民クラブ 小原 はじめ

【質問】市から発信される文書には、慣例的な言葉の言い回しや難解な専門用語など通称「お役所言葉」が見受けられる。相手や内容に応じた多様な媒体と表現を使用し、伝えたい事が市民に伝わっているかを検証し「従来どおりの文書表現でよいのか」などを意識した文書作成が重要になる。読みやすく、わかりやすい文書作成に向けた本市の取組みと今後の考えを問う。

担当 総務課

【答弁】本市では、「文書事務の手引」において、「専門用語や難しい表現を避けること」等、職員が文書を作成する際に留意すべき基本的事項を示し、さらに、手引の内容に関する研修を毎年実施しています。今後は、近年増加しているカタカナ語などの新しい用語をわかりやすく言い換えるための用語集をまとめ、文書作成の際に活用することにより、読み手にとって「やさしい」文書の作成に取り組んでいきます。



【その他の質問事項】

■働き方・仕事の進め方改革について

9 デジタル化による窓口業務の効率化について

質問者 公明党 佐々木 けいすけ

【質問】本市でのデジタル化による市民サービスの向上や行政運営の効率化の観点から、①市民課窓口業務での各種証明書等の受付から発行終了するまでの待ち時間、年間の受付件数、職員数の現状について、②他部署での窓口業務の取組について、③デジタル活用と働き方による市民サービスの向上への取組について問う。

担当 市民課・デジタル推進課

【答弁】①待ち時間は、通常5分から10分程度、令和2年度の受付件数は240,937件、職員数は通常期20人程度、繁忙期25人程度です。②他部署では、住民情報等を申請書に印字し記入の負担を軽減するほか、端末を利用した手話通訳を導入しています。③書かない窓口は業務の流れの整理、改善の中で必要に応じ検討し、待たない窓口は手続きのデジタル化やコンビ二交付の利用拡大で混雑解消等を目指します。行かない窓口はオンライン申請の利用拡大に取り組めます。



10 「こころの病気」への理解を進めることについて

質問者 公明党 田中 千幸

【質問】こころの病気で、通院・入院をしている人は国内で400万人超。本市に於いても増加し40から64歳の働き盛り世代が最も多い。病に対する根強い誤解や偏見を無くし、理解を促進することについて、市の考え方と取組の現状を問う。又、当事者の周囲の人が的確な対応ができるよう、実践的なOJT型の方法を含むわかりやすい講習会を開催できないかを問う。

担当 健康増進課・障がい福祉課

【答弁】こころの病気は、家族や知人だけでなく、社会全体が病気の特徴を知り、寄り添いながら支援していく大切さを理解することが重要です。市では、パネル展示や広報、ホームページ、SNSなど様々な機会を通して情報の発信に努めています。また、メンタルヘルスに関する健康講座やこころの体温計周知カードの配布、ゲートキーパー養成講座を実施しています。今後は、啓発講演会などでOJT型の方法の活用を検討します。



11 公共下水道事業について

質問者 共産党 伊藤 建治

【質問】①高蔵寺浄化センターは廃止、新接続管(102億円)で高蔵寺の水を南部浄化センターに運び、勝西と南部の2場体制とする計画。南部と高蔵寺の2場の方が効率的ではないか。②河川も名古屋港も汚れておらず汚水処理人口普及率も95%になる見込み。市債の1/3(463億円)が下水道企業債。今後の整備に800億円。市民にも重い負担がある。今後の整備は立ち止まるべき。

担当 上下水道経営課

【答弁】①南部と高蔵寺の2場体制とした場合、将来、南部浄化センターを敷地内で更新することができないことから、接続管としての圧送管などを整備する必要があるため、施設整備費や維持管理費が増加するなど、コスト削減には繋がらないと考えています。②名古屋港は水質改善が進んでいますが、伊勢湾は、まだ改善途中であるため、引き続き下水道整備を進めていく必要があると考えています。



【その他の質問事項】

■あい農パークについて ■学校へ行けない子どもたちへの支援について
■進学への支援の取り組みについて ■病後児保育について